

《2014年 輝いた女》

諏訪市で初の女性PTA会長 諏訪南中学校PTA会長 原 まゆみ さん



○会長になった経過

会長決めの話し合いをしたのですが、皆やりたくない理由ばかりを述べてなかなか決まらず、「男性でなくてはいけない」という理由がないという事なので私がお引き受けしました。

○プレッシャーはありませんでしたか?

初めはありましたが、副会長さんと出身地が同じだったり、他校の会長さんたちも顔見知りだったりであり肩身の狭い思いはしませんでした。特に城南小の高木会長がいたことはとても心強かったですね。

○仕事をしているとお聞きしましたが、

パート勤務ですが、会議のある日は職場で都合をつけてもらっています。職場に理解があってとても助かっています。

○まわりの反応はどうか?

保護者の方や学校関係者は「大変でしょう」と言ってくれるのですが、私は大変だと感じたことはありません。「会長は大変なもの」という考えが植え付けられているのではないのでしょうか。私はとても楽しくやらせてもらっています。和気あいあいとして「ほんわか」した感じがあります。

○やってよかったと思う事は?

今まで見えない部分が見えてきて、関わったことのない保護者の方々とも知り合いになれ、人の輪が広がりました。

○最後に一言

PTA会長は楽しいので、是非やってください。仕事しながらでもできます。それから、もっと女性の会長が増えるといいと思います。



諏訪市で初の女性PTA会長 城南小学校PTA会長 高木 智子 さん



○会長になった経過

会長は現役員が次期役員に電話でお願いするという選出方法で、私のところに来ました。前から女性の会長はどうかという話があったようで、声をかけてくださった方の進歩的な考え方がなければ実現しなかったと思います。役員間でも異論を唱える人はいなかったようです。

○プレッシャーはありませんでしたか?

初めはありました。前に役員をやっていたので、内容はわかっているのですが、その辺は大丈夫でした。また、会議に出ていけば男性ばかりだと思っていたのですが、諏訪南中に原会長がいたことはとても心強かったですね。

○PTA活動はどうか?

すばらしい仲間恵まれたので、とても楽しいです。イベント企画サークルのようです。やること、出かけることは多いですが、学校にも協力してもらえらるので子ども達に喜んでもらえることを皆で考えてやってい

ます。また、前年からの引継で、PTA事業の見直しをしています。時代に合ったように簡素化して、委員会間の偏りを無くそうと考えています。

○家族の方は?

夫には、会長の話があったときには心配して「辞めておいたら」と言われましたが、基本「やりたいことはやっていいよ」というスタンスなので、今は私が遅く帰ったりすると食器を洗っておいてくれたりします。夫も息子も娘も食事は作れます。子どもには教えてありますから…。

○やってよかったと思う事は?

いろんな方と知り合いになれ、接点を持てたこと。一緒に役員をしている方と仲間みたいな関係ができたこと。また、組織の運営も勉強できました。

○最後に一言

機会があったら是非やってください。やってみると結構楽しいですよ。PTA活動は女性に限らず男性も積極的に出てほしいと思います。お父さんもどどん学校に係わって欲しいと思います。



諏訪警察署で初の女性警部 生活安全課長 新井 美雪 さん



○諏訪署での仕事内容は?

生活安全課で特に特殊詐欺防止に力を入れています。諏訪は首都圏にも近く狙われやすい土地柄で、60歳以上の方がターゲットになっています。絶対に自分は大丈夫、起らないと思っている人ほど危険です。騙す手口は年々巧妙になってきていますので、広く実態を知ってもらい防止に向けて活動をしています。また、最近では認知症の方の行方不明も多くなってきており、福祉関係者との連携を密にして捜す目をたくさん作る、ネットワークづくりをしていかななくてはと思っています。

○諏訪の印象は?

諏訪の女性は働き者でパワフルです。仕事の関係で防犯協会の女性部の方々とお付き合いがありますが、家のこともボランティアもしっかりとこなしていて、私も見習わなくてはならないと思います。

○女性警察官についてどのようにお考えですか?

女性だからという事は特に考えずにきました。女性だからこそやらせて

もらえたことが多くあります。性犯罪関係とか。また、珍しがられるので、多くの方と話をする機会が増えて、人の輪が広がっていきます。

○働き続けられる環境について

男性と同じく当直もあります。厳しい環境ではありますが、以前に比べ子どもがいる職員に対する配慮もされるようになり、結婚・出産で辞めずに働き続ける女性が増えてきています。

○今後に向けて

女性だからこそできることを活かし、地域と密着して頑張っていきたいと思っています。

《諏訪警察署長 山口一平さんより一言》

警察はまだまだ男社会で遅れており、女性が進出するには環境整備が整っていません。その中で先頭を切って働いており目標となっています。能力は高いので、後輩をいい方向へ導けるよう引っ張って欲しいですね。男女を問わず長野県警察を代表する警察官になってほしいと思います。



編集後記

平成26年度は「大雪」「大雨」「噴火」「地震」と自然現象の驚異、警告とも取れる災害に本当に驚かされた年でした。諏訪市男女共同参画市民協議会は、紙芝居の制作・上演など一段階ステップを上がった年であったと思います。平成27年は更なる上を目指して行きたいと思っています。男女共同参画に興味のある方の参加をお待ちしています。殊に男性の入会歓迎です。

ご意見お問い合わせは ◆諏訪市まちづくり・男女共同参画推進課 TEL 52-4141 内線289



「社員の子育て応援宣言」って知ってる?



「社員の子育て応援宣言」は、企業事業所のトップの方から、従業員が仕事と子育ての両立ができるような「働きやすい職場環境づくり」のしくみを宣言してもらう制度です。

《★★会社のお昼休み》

○先日新聞に A 社が「社員の子育て応援宣言」したって記事が載っていたけれど、どういうことか知ってる?

◇私も見たけれど、社員が子育てしやすいように企業が考えてるってこと?

△調べてみたんだけど、企業や事業所のトップの方から、従業員が仕事と子育ての両立ができるような「働きやすい職場環境づくり」の取り組みを宣言してもらう制度みたい。

◎私もパソコンで検索してみたけれど県でやっているようだよ。ホームページに企業名や取り組み内容ののってたよ。

○どんな内容?

◎子どもを持つ従業員が、保育園や学校の行事に参加しやすいような職場環境を推奨するとか、短時間勤務体制の導入に取り組むとか…。

△託児所を設置したいってところもあったよ。

○子どもを持つ人が、男性も女性も関係なく仕事も子育てもできるような環境をつくっていくって宣言すること?

◎そう、会社のトップが宣言するの。

◇諏訪市でも宣言しているところが結構あるよね。

△子どもを産んでも働き続けられる、男性が子育てに参加できるってことは会社にとっても働き手にとってもいい事だね。

○そんな企業が増えれば働き手も増え子どもも増えて、産業も活性化して少子化対策にもつながって一石二鳥じゃない?

◇そうだね。もっと宣言をしてくれる企業が増えればいいね。

企業トップのコメント

■高島産業(株) 小口 武男 社長

女性にもっと働いてもらいたいし、働きやすい職場にしたいと思っています。

そのためには「子育て」の部分のフォローが大切。そのために、フレックスタイム制度を有効に利用して、女性だけではなく男性にも子育てしやすい就労環境を整えていきます。

■株興自動車興業 三澤 秀明 社長

安心して子どもを産み育てられる環境は、経営者の考え方を変えることから始まると気づかされました。「妊活」を勧め、働きやすい職場づくりに取り組み、雇用を活性化させ、さらには少子化対策にもつなげていきたいと思っています。

諏訪市で「社員の子育て応援宣言」をしている企業(平成26年12月1日現在)

(株)山崎商店、(株)たび寅、ハトヤメディカルサポート(株)、(有)マルワ住設、NPO 法人ハートリンク、(有)トミヤレジャーシステム、(株)共進、(株)大東製作所、NPO 法人すわ子どもステーション、(社福)諏訪市社会福祉協議会、山谷運輸(株)、学校法人聖リゴリオ学園、(株)岐阜屋、(株)豊田ダイカスト、スワテック建設(株)、(株)電管エンジニアリング、(株)シガテクノス、医療法人正和会、(株)興和自動車興業 高島産業(株)、(株)ピーエムオフィスエー (順不同)

諏訪市男女共同参画市民協議会の活動報告

紙芝居 「女と男でつろう わがまち～女性区長誕生まで～」

女性区長誕生までの紙芝居を作りました。6月男女共同参画週間に市役所ロビーで初上演、自作自演に新聞社の取材もあり、出足は好調。「ともに生きる諏訪市民大会」ではLCVでつくったDVDを流しました。7月要請を受けあいとびフォーラムで県内各地からの参加者の前で上演、熱心に質問をされる方もいました。8月社協のボランティアフェスタに参加して幅広い市民の方に観て頂きました。10月小川区で出前講座初上演を致し、区政への女性の参画を呼びかけました。



外国籍相談窓口相談員との懇談会 ■5月8日 相談員：川西ケンジさん



川西さんはブラジル生まれの3世で父親とともに日本へ出稼ぎに来日。2012年頃諏訪に来て2014年から相談員になり、主にブラジル人の通訳や日常生活についての相談を受けている。一時多かったブラジルの人たちも多くは帰国したが比較的若い人たちが残っていて、生まれた子供たちも日本の教育を受け定住したい人もある。理由は日本では文化的な生活ができるからという。生活する上で法律や税金のことなど解らないことも出てきて困ることも多々ある。

【男女で担う生活サポート講座①】「じいじ・ばあばのための孫育て講座」

■5月27日 講師：諏訪赤十字病院助産師 山並航さん

山並さんから「子育て、今と昔」をクイズ形式で赤ちゃんは生まれたら産湯につかる、産湯につかると体温が下がるので生まれてすぐは拭くだけの医療施設が増えている。といった具合に解かりやすく説明していただきました。泣いたら抱っこしてあげましょう。母乳が一番。ペーパーパウダーは汗の出る穴がふさがるので最近は見つけない人が多い。祖父母は家事を中心に手伝いましょうなど、自分の子育ての時の思い出しながら聞いておりました。一番違うことは、父親の8～9割は立会分娩を希望し、最初に泣くのも父親のようです。両親、祖父母とも赤ちゃんに教えられながらゆったり育てていかればよいなと思いました。



ともに生きる諏訪市民大会 ■6月14日 講師：村上信夫さん「大人が子どもに伝えるべきこと」



講演の中で、言葉は人を元気づけたり、勇気を与えたり、癒したりもするが、武器になったり、楽器になったりする事もあるという。学生時代当時のNHKアナウンサー中西龍氏の「アナウンサーは人の喜びを二倍にし、悲しみは半分にして感情表現をする。」という言葉に入局をめざしたとのエピソードを話されました。子どもたちに伝えたいことは「ありがとう」「いただきます」「おかげさま」日常の会話に使う言葉であるという。相手の目を見て話すことが、その心を捉えるという。自分も育っていくし相手の気持ちも変えられるという。最後に村上さん自身の作詞の歌を披露し講演を終わりました。歌をもう一度聴きたいです。

男女共同参画社会に向けての全国会議 ■6月27日

日比谷公会堂にて会議が開催されました。「女性が輝く社会を目指して」という森まさこ大臣の基調講演があり、女性の活躍→経済成長、日本再興戦略の推進、政府の取組と成果、保育の拡充、育児休業給付の充実、女性の活躍「見える化」サイトの開設、国家公務員の女性登用状況等について話されました。いろいろな面でお互い勉強し合い、語り合い、女性の活躍の場を与え、充実させる事が大切だと思います。



視察研修 ■7月15日 株サンキ 安曇野市男女共同参画推進会議

金属プレスメーカー「サンキ」では女性スタッフのみで従来の業務とは全く違った新事業を立ち上げ、女性の目線で除菌消臭剤を開発し、販売も手掛けています。自信を持って勧められる商品なので、会社組織を立ち上げたいととても意欲的でした。安曇野市男女共同参画推進会議との研修会では、それぞれの会の活動について意見交換をしました。合併から10年、合併以前の5町村がひとつにまとまっていくのはとても難しいことだと痛感しました。



親子でサッカーボールで遊ぼう ■10月4日 保育園保護者会共催事業



この企画の目的は、子育ての分野でも男女が共に参加すること、保護者会の今年度のテーマ『「共育ち」今しかできないことを見つけよう!』の双方の主旨に合った企画でありました。今年は初めてAEDの講習会を取り入れ、小さい子供を持つ保護者にとって大変勉強になりました。子供たちが肌寒くなった時期にもかかわらず、汗だくになり夢中でボールを追いかける姿に成長を感じたり、このひとときを大切に思うという感想を多く頂き、そういう意味では成功した企画だったと思います。

出前講座 ■10月30日 小川区

紙芝居を使ったはじめての出前講座を小川区で行いました。区の役員18名男性ばかりで紙芝居の内容が、ぴんと来ないようでした。少しがっかりしましたが、区によって温度差がありますので仕方ないかなと思います。紙芝居の後意見交換をしました。協議員から区長が終わるまで6年間役員をやるようで、男性でも大変のようです。これからも紙芝居を携えて各地区へ出向きたいと思います。ご希望のある地区はご連絡ください。



男女で担う生活サポート講座② 目指せイクメン!!「パパのためのベビーダンス講座」

■11月16日 講師：山本美枝さん



今年度初めて「パパのためのベビーダンス講座」を開催したところ7組の親子の参加がありました。インストラクターの山本先生の指導のもと、赤ちゃんを抱っこしながら音楽に合わせて踊っていると、何故か泣いていた子が安心して寝てしまいました。これなら、ママから「面倒見て」と頼まれた時でも大丈夫!!子どもとのスキンシップも図れ一石二鳥。イクメンの第一歩を踏み出せたと思います。参加されたパパは皆さん初体験で、見ていて一生懸命さが伝わってきてとても微笑ましい光景でした。



男女共同参画市民協議会の仲間入りをして

東京から転居して7年。地域との関わりを大切にしたいと市民協議会のメンバーに応募しました。私にとっての初会議は驚きの連続で、特に会長さんの挨拶の中で「今年度は女性のPTA会長が2人も誕生して本当にうれしく思います。」と話されたことです。私がPTAに關っていた40年前、東京では女性の会長はあたり前であり皆元気に活躍していたのにこの地では何故だろう?素朴な疑問でした。話の中で、背景にこの地域の慣習があることを知ったが、グローバル社会であり、この諏訪の地を魅力ある地として発信していくためにも「この地域の慣習だから…」から一歩抜け出す努力が必要でないだろうかと思っています。(北村けい子)

